

農林水産商工常任委員会資料

(平成29年3月6日)

項目	ページ
1 旧鳥取高等農業学校校舎における株式会社LASSICの事業開始について 【立地戦略課】……………	1

商工労働部

旧鳥取高等農業学校校舎における株式会社LASSICの事業開始について

平成29年3月6日
立地戦略課

旧鳥取高等農業学校校舎の改修工事・内装工事等が完了し、入居企業である株式会社LASSIC（鳥取市）が事業開始されることとなり、下記のとおり記念行事及び新社屋見学会が開催されました。

1 記念行事及び新社屋見学会

- (1) 日時 平成29年2月25日（土）午前10時～正午
- (2) 場所 旧鳥取高等農業学校校舎（鳥取市南吉方3-201-3）
- (3) 出席者 平井知事、深澤市長、鳥取大学農学部同窓会山口副会長、智頭町、岩美町 他
- (4) 内容 開所式、テープカット、記念撮影及び事業所内覧会

（株）LASSIC代表 若山代表取締役の挨拶でのコメント

- ・旧高農校舎という歴史ある建物で操業できることは大変光栄。期待の大きさをヒシヒシと感じる。
- ・鳥取発ITで地方創生という経営理念の元、旧高農校舎の高い志を受け継ぎ、社会に役立つサービスをしっかりとこの地から発信していきたい。

2 株式会社LASSICについて

(1) 企業概要

名称：株式会社LASSIC（ラシック）	／	所在地：鳥取市南吉方3-201-3
代表者：代表取締役社長 若山 幸司	創業：2006年12月	／ 資本金：8,888万円
従業員：132名（うち鳥取は63名）	／	事業内容：ソフトウェア開発
*平成19年11月に事業拡張で県、市、LASSICで協定締結（セコム山陰に入居、ソフトウェア開発）		

(2) 立地概要

- ・投資額 約4億円（土地、旧高農校舎内装工事、新社屋建築費、機械装置）
- ・新規雇用計画 60名（平成33年度まで）※既存社員63名と合わせて約120名体制とする

(3) 事業内容「感情解析研究開発事業」

- ・（株）LASSICは心の健康増進を目的として、鳥取環境大学内に感情医工学研究所を開設（H24.5）し、「感情解析技術」を活用した研究を実施している。
- ・研究成果をメンタルセルフケアや組織マネジメントに応用し、「森林を活用したメンタルヘルスプログラムの開発」やストレス指数を見える化するソフトウェア等の「感情×IT」のサービスを展開する。

⇒平成28年1月21日に当該事業を企業立地事業認定『輝く成長企業 ニッチトップ認定』

*智頭町とは、平成27年5月に「智頭町『疎開』の町」協定を、また岩美町とは、平成27年8月に「移住定住モデルづくり」協定を締結している。

*（株）LASSICは、鳥取県で就職希望する全国の求職者を対象として、IoT・ビッグデータ等活用人材を育成する「TORIoT（トリオット）」鳥取県戦略産業雇用創造プロジェクト事業を受託。

【参考：高農校舎の主な経緯等】

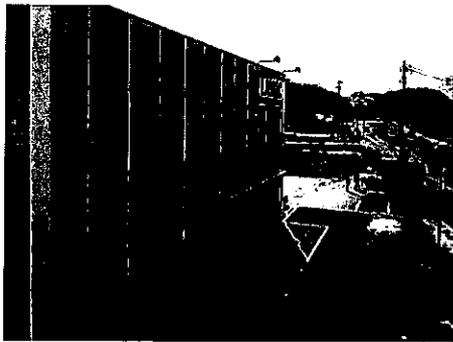
- ・大正9年 「鳥取高等農業学校」設置
（日本で3番目の国立高等農業学校、県民の寄付40万円）
- ・昭和41年 鳥取大学の移転に伴い新たに立地した鳥取三洋電機（株）が校舎を取得
- ・平成25年 県議会で校舎存続に関する決議可決（H25年3月7日）
鳥取市が用地取得し校舎を県に譲渡
- ・平成26年 （株）LASSICの校舎利用が決定（H26.3.12調印式）
- ・平成27～28年 県が耐震改修工事等を実施、（株）LASSICが内装工事を実施



設計は東京駅や日本銀行本店を設計した、日本を代表する建築家、辰野金吾（たつの きんご）氏の愛弟子であり、当時文部省大臣官房建築課長であった、柴垣鼎太郎（しばがき ていたろう）氏



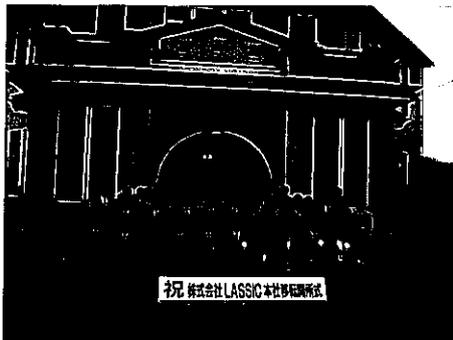
(株)LASSIC 代表の若山代表取締役



高農校舎に隣接する LASSIC 新社屋



新社屋 2 F 開発スペース



正面玄関前での記念撮影



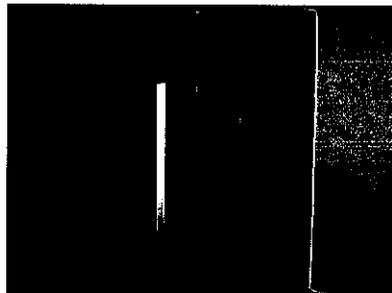
旧高農校舎。2Fに総務部門が入居
(右奥建物が LASSIC 新社屋)



高農校舎 1 F エントランス



智頭杉を利用した休憩スペース (1 F)



鳥大農学部同窓会により高農に関する歴史資料を展示 (1 F)
・当時の校舎の写真、一期生の卒業アルバムなど



玄関横に設置した石碑。鳥大敷地内に保管してあったものを同窓会が移設。

<参考：旧鳥取三洋電機跡地（鳥取市南吉方）敷地全体図>

